

愛媛果樹試研報

Bull.Ehime Fruit Tree
Exp.Sta.Japan

ISSN 0389-2867

愛媛県立果樹試験場研究報告

第 18 号

平成 16 年 3 月

BULLETIN
OF
EHIME FRUIT TREE EXPERIMENT STATION
No.18
March 2004

愛媛県立果樹試験場
(松山市下伊台町)

Ehime Fruit Tree Experiment Station
Shimoidai, Matsuyama, Ehime, Japan

序

鮮やかな色彩と甘くて多汁で爽やかな香りを有するモモは、夏を代表する果物として消費者に根強い人気がある。しかしながらモモの果実は、生育期における日照不足や降水量などによって品質が左右されやすく、天候不順年の果実は消費者の不評を買い価格低下の大きな一因となっている。また、モモの栽培は、剪定・摘蕾・受粉・摘果・袋かけ・防除など、管理に多くの手間がかかることから、棚栽培など省力化への取り組みも盛んである。

今回報告のユスラウメ台木を用いたモモ栽培についての研究は、こうしたモモ生産の現況改善を企図して実施されたものである。

モモのわい性台木を用いた試験については、1980年代～90年代にかけ、大学や公立の研究機関においてニワウメやユスラウメを用いた試験が行われ、熟期促進や高糖度化などの成果を基に県外の一部地域で産地化されたが、樹勢の衰弱・枯死等の問題により、ほとんど栽培が中断されているのが実情である。一方、本県では10数年前からユスラウメ台木を利用したモモの産地作りが始まり、現在も25ha程度の園地が残っているが、樹勢の衰弱や枯死の問題などが未解決であることから、面積はやや減少傾向にある。

本研究では、ユスラウメ台木に対するモモ品種の親和性についての研究や樹勢衰弱の回避技術について検討した。本技術をより安定した技術として確立するためには、優良なユスラウメ台木の繁殖技術の開発など、残されている課題はまだ多いが、今回の研究成果が産地において活用され、元気な産地作りに多少なりとも寄与できれば幸いである。

愛媛県立果樹試験場長
世 良 親 臣

愛媛県立果樹試験場研究報告 第18号

ユスラウメ台木モモ樹における樹勢衰弱とその回避技術

矢野 隆

The tree decline of peach grafted on *Prunus tomentosa* and its countermeasures

Takashi Yano

第1章 緒言	1
第2章 ユスラウメ台木とモモ品種の親和性の比較	3
第1節 ユスラウメ台木に接いだ各種モモ品種の特性	3
1) 収量, 1果重, 果実品質	3
2) 乾物重	4
3) 接ぎ木部周辺組織の比較	5
4) 考察	6
第2節 衰弱発生程度の異なる2品種における炭水化物含量の消長	9
1) 可溶性糖含量の消長	9
2) デンプン含量の消長	11
3) 考察	12
第3節 摘要	14
第3章 親和性中間台木利用によるユスラウメ台木‘川中島白桃’樹の樹勢維持	16
第1節 親和性中間台木の利用と乾物生産, 炭水化物	16
1) 乾物重	16
2) 炭水化物	17
3) 考察	20
第2節 親和性中間台木の利用と冬季施用窒素の吸収	22
1) 冬季施用した ¹⁵ Nの吸収	22
2) 考察	25
第3節 摘要	25
第4章 樹勢維持のための適正結果量とジベレリン散布の効果	27
第1節 結果量と樹勢	27
1) 新梢生育および果実収量, 品質	27
2) 乾物生産	28
3) 炭水化物	29
4) 考察	34
第2節 ジベレリン散布による栄養生長性の維持	36
1) 散布時期	36
2) 散布濃度	37

3) 散布量	37
4) 考察	40
第3節 摘要	41
第5章 総合考察	42
総摘要	46
謝辞	48
Summary	49
引用文献	52